

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書

～学校、家庭、地域、行政が一体となった教育活動の充実に向けて～

北海道教育委員会

平成 30 年 11 月

【はじめに】

平成30年度全国学力・学習状況調査を詳細に分析し、北海道版結果報告書として取りまとめました。本報告書は、教科に関する調査と質問紙調査の結果について、全道や管内・市町村の状況を多角的な観点から分析し、成果と課題を示すとともに、教育委員会や学校等における学力向上の取組の参考となるよう、課題の解決に向けた方策と事例を掲載しています。

本道の状況は、中学校の国語Aと理科で全国の平均正答率を上回り、他の教科においても、正答数の少ない子どもの割合が減少するなど、改善の傾向が見られます。一方、学校が検証改善サイクルの確立に取り組んでいるものの教科に関する調査結果にその効果が十分に現れていない、ゲームなどを行っている児童生徒の割合が全国よりも高い、などの状況が見られることから、校長のリーダーシップによる組織的な授業改善や、学校と家庭が連携した望ましい生活習慣の確立に向けた取組を一層充実させる必要があると考えています。

道教委では、本道のすべての子どもたちが、社会で自立するために必要な学力をしっかりと身に付けることができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となって、北海道の将来を担う子どもの姿を共有し、学力向上に向けた取組を一層推進してまいります。

教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様には、本道教育の推進に向け、引き続き深いご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年11月
北海道教育委員会

【目次】

I	結果のポイント	2
II	全道の状況	
1	平均正答率の推移	3
2	調査結果のレーダーチャート図	5
3	正答数の状況	18
4	継続的に成果を上げている県の取組等の比較	20
5	質問紙調査結果と教科に関する調査結果のクロス分析	23
6	経年比較による改善状況	25
7	札幌市を除く北海道の調査結果	28
III	管内の状況	
1	管内の平均正答率の分布	32
2	各管内の状況	34
IV	市町村の状況	
1	市町村の平均正答率の度数分布	92
2	市町村の規模別の平均正答率	93
3	市町村の状況及び学力向上策	96
	執筆者・協力者一覧	449
	【資料編】北海道の学力向上関連の取組の検証及び改善に向けた取組 別冊	
1	成果と課題	別1
2	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	別2
3	検証改善サイクルの確立	別20
4	小学校と中学校が連携した取組の充実	別24
5	望ましい生活習慣の確立	別26
6	平成30年度の道教委の取組	別28
7	参考資料	別30

【調査の概要】

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

3 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（A）
 - ・主として「活用」に関する問題（B）
 - ※ 理科は（A）と（B）を一体的に出題
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査の実施日

平成30年4月17日（火）

6 平成30年4月17日（火）に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道（公立）				〔参考〕全国（公立）			
	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,016	1,012(99.6%)	39,617	小学校	19,433	19,386(99.8%)	1,030,031
中学校	590	589(99.8%)	39,683	中学校	9,630	9,597(99.7%)	967,196
合計	1,606	1,601(99.7%)	79,300	合計	29,063	28,983(99.7%)	1,997,227

※ 札幌市を含む。

※ 小学校には義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部を、中学校には義務教育学校後期課程、中等教育学校及び特別支援学校中学部を含む。

※ 調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数に含まれていない。

調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値*1、標準偏差*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着眼して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに道教委が独自に算出した小数値で示している。
- 管内及び市町村の状況で掲載している学校数は、調査を実施した学校数、児童生徒数は、国語Aの調査に参加した児童生徒数を記載している。また、グラフには、「その他」、「無回答」等の数値を記載していないものもあり、必ずしも合計が100%にならない場合がある。
- 掲載しているクロス集計等については、相関関係を示したものであり、必ずしも因果関係を示したものではないことに留意することが必要であり、データから読み取れる内容と実際の状況とをよく照らし合わせて分析する必要がある。質問紙調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目は、正答率等との相関関係が表れにくいこともある。

*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。